

データヘルスの推進に係る取組事例

平成29年11月13日

ワールド健康保険組合

ワールド健康保険組合の概要

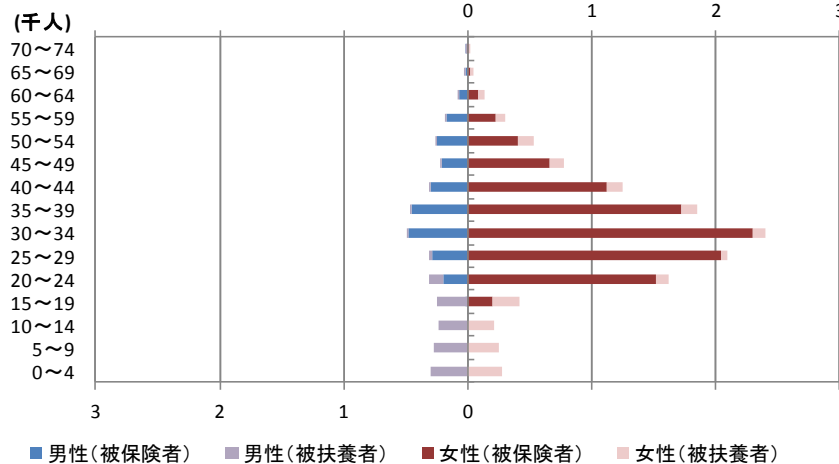
STEP 1 - 1 基本情報

「全健保組合共通様式」

組合コード	74104		
組合名称	ワールド健康保険組合		
形態	単一		
被保険者数（平成29年3月末現在） * 特例退職被保険者を除く。	12,760名 男性19.1%（平均年齢38.9歳）* 女性80.9%（平均年齢33.8歳）*		
特例退職被保険者数	0名		
加入者数（平成29年度予算注）	16,905名		
適用事業所数	26ヵ所		
対象となる拠点数	2,336ヵ所		
保険料率（平成29年度）*調整を含む。	95%		
	全体	被保険者	被扶養者
特定健康診査実施率（平成28年度）	89.8%	94.9%	56.4%
特定保健指導実施率（平成28年度）	49.2%	50.3%	0.0%

		健康保険組合と事業主側の医療専門職 （平成29年4月1日現在）	
		常勤	非常勤
健保組合	顧問医	0	0
	保健師等	2	0
事業主	産業医	2	6
	保健師等	2	0

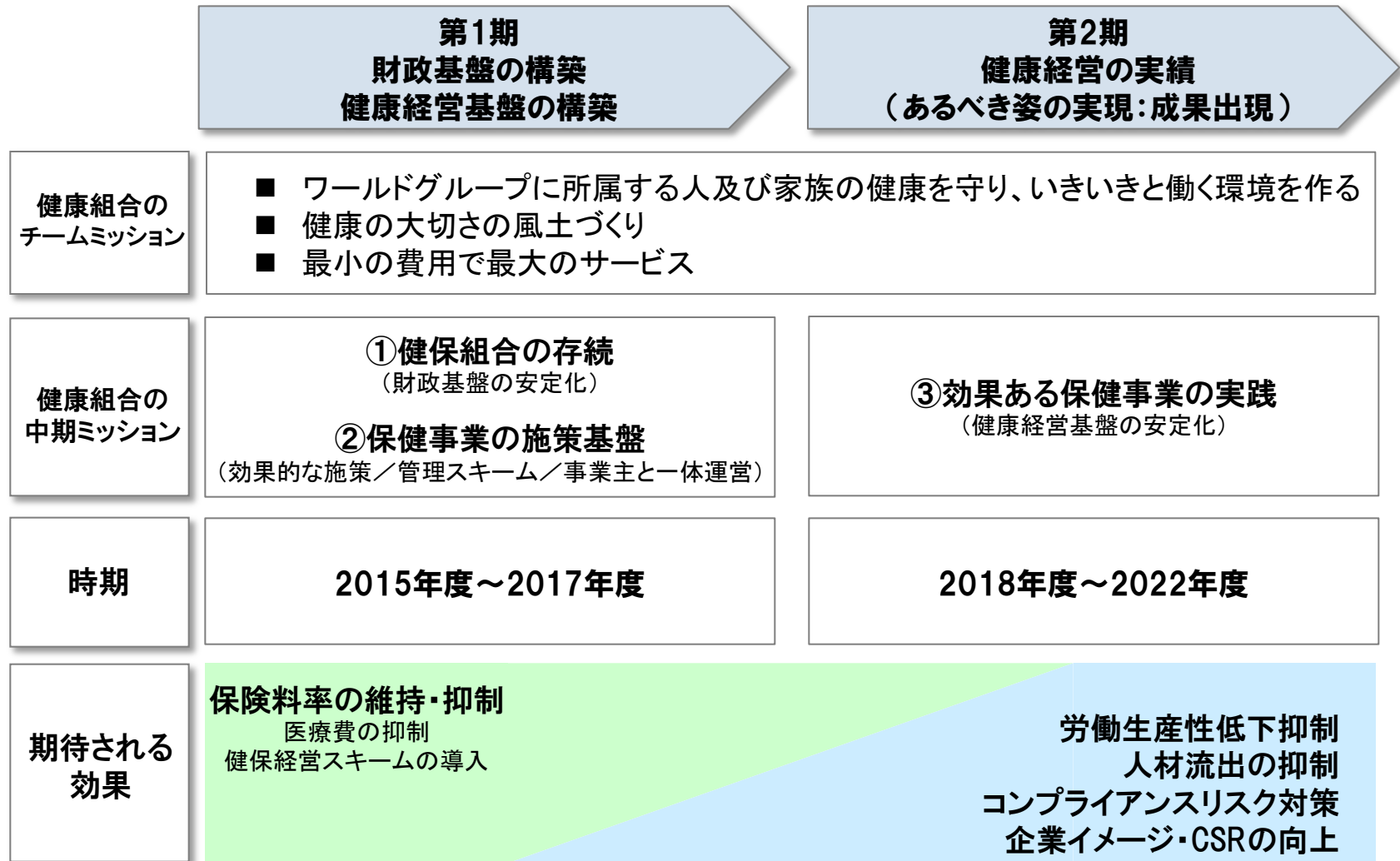
保健事業費	被保険者一人当たり金額（円）	
	予算額（千円） （平成29年度）	
特定健康診査事業費	6,750	529
特定保健指導事業費	6,920	542
保健指導宣伝費	4,100	321
疾病予防費	147,470	11,557
体育奨励費	2,500	196
直営保養所費		0
その他	42,420	3,324
小計 …a	210,160	16,470
経常支出合計（千円） …b	4,076,383	
a/b×100（%）		5.16



（注）記載要領参照

- ① 標準報酬が健保組合平均よりも低く、保険料収入が少ない。（記載無し）
- ② 被保険者の80.9%を女性が占め、全体の平均年齢が34.7歳と若い。
- ③ 販売系の会社に所属する被保険者が全体の80.5%で、店舗が全国に分散しているために、加入者の具体的な情報を得ることや、本人への介入が非常に困難である。

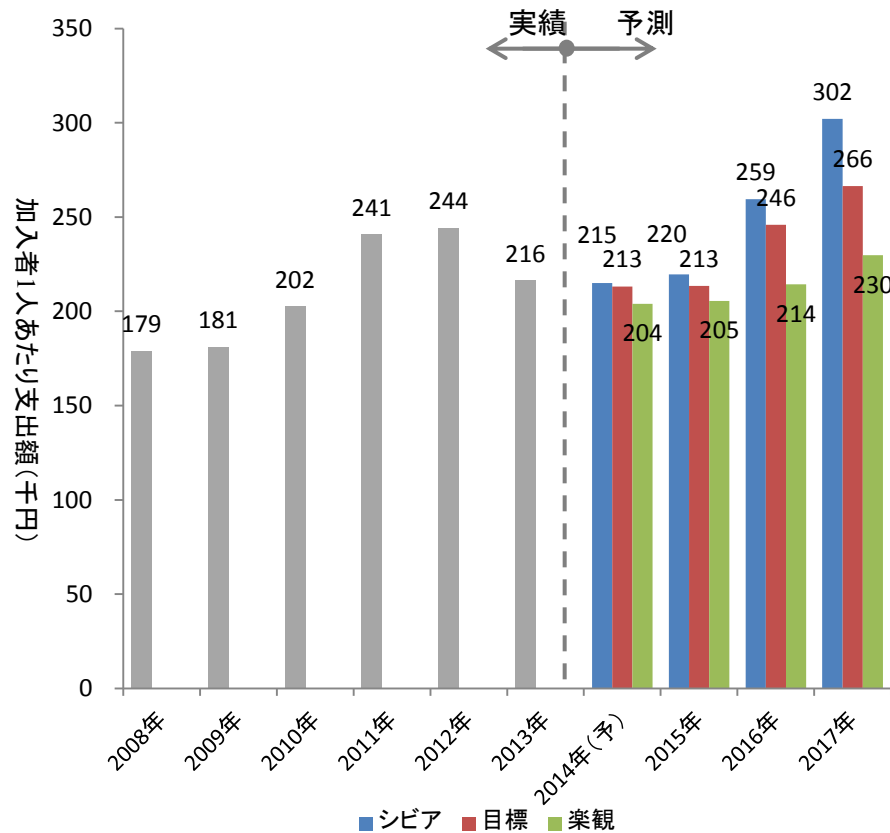
I. ワールド健康保険組合のビジョン



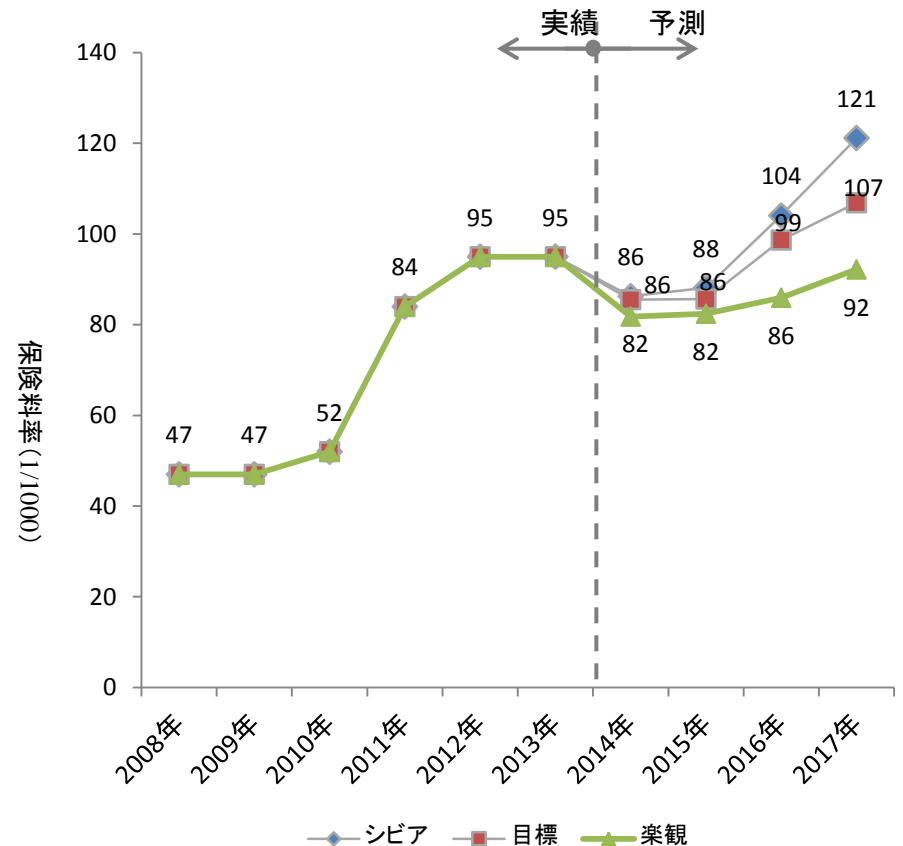
Ⅱ. 第一期 経営目標(2015～2017) 1. 現在の経営状況 (将来の支出シミュレーションの結果)

収支のバランスを取るには、2017年度の時点で9.2～12.1%の保険料率が必要となる。

シナリオ別の支出シミュレーション

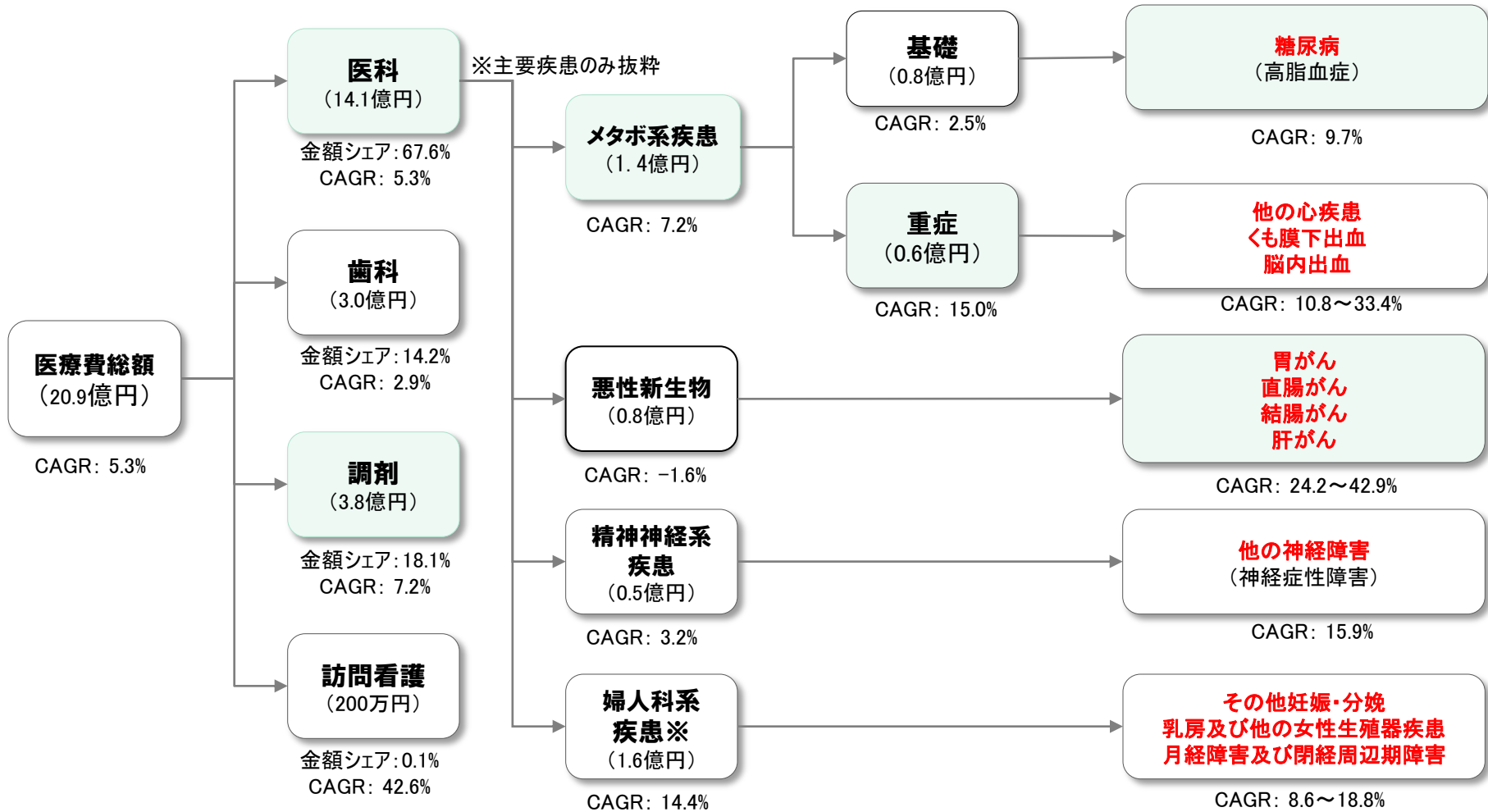


支出額に見合った保険料収入を得るための料率



加入者数が横ばいの中、医療費総額は増加傾向にある。
当健保は、主要3疾患に加え、婦人科系疾患が多いのが特徴である。

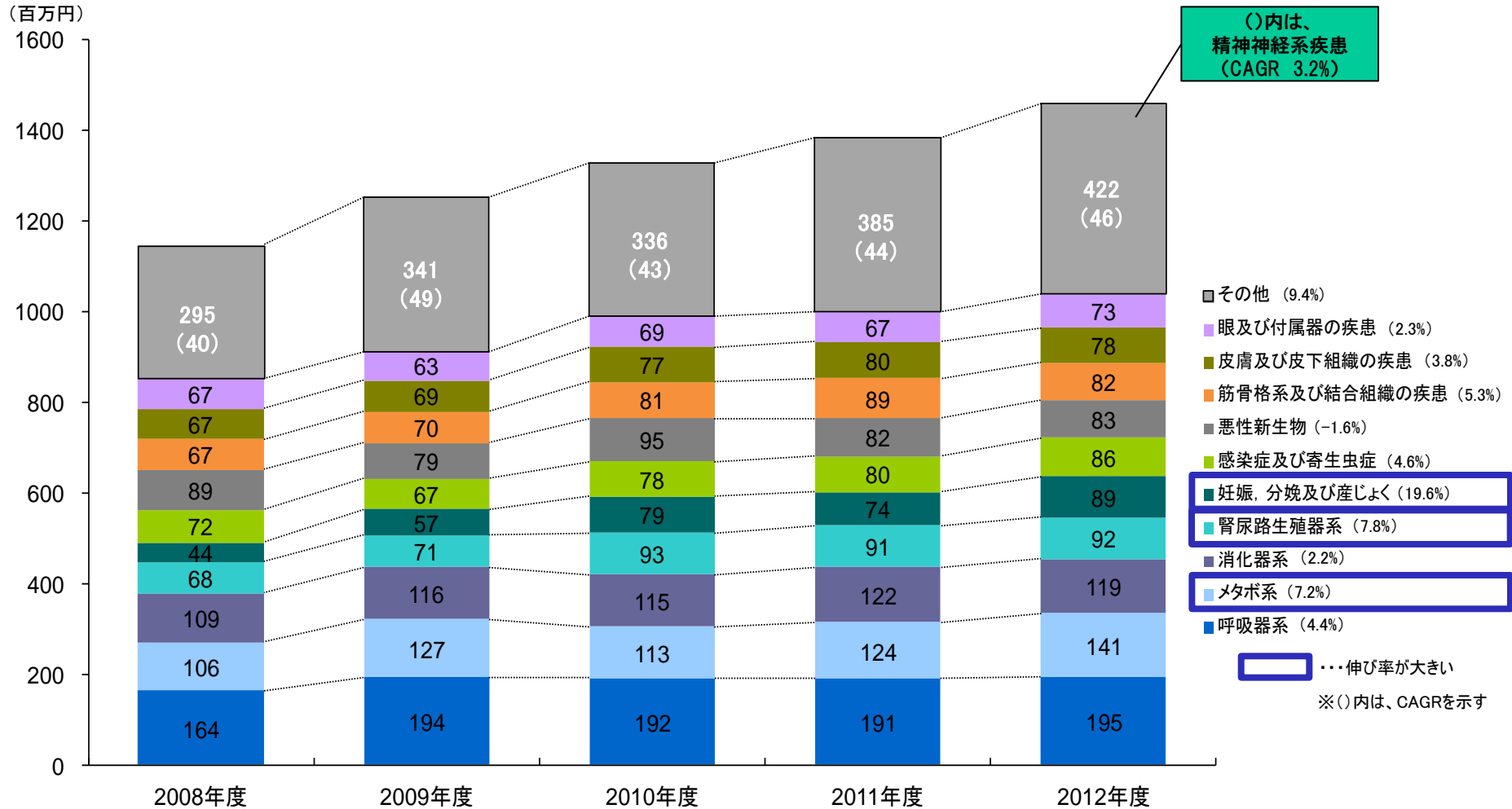
医療費の全体像と傾向



※婦人科系とは、「妊娠、分娩及び産じょく」に加え、「腎尿路生殖器」の中の「乳房及び他の女性生殖器疾患」「月経障害及び閉経周辺期障害」を加えたものとする。

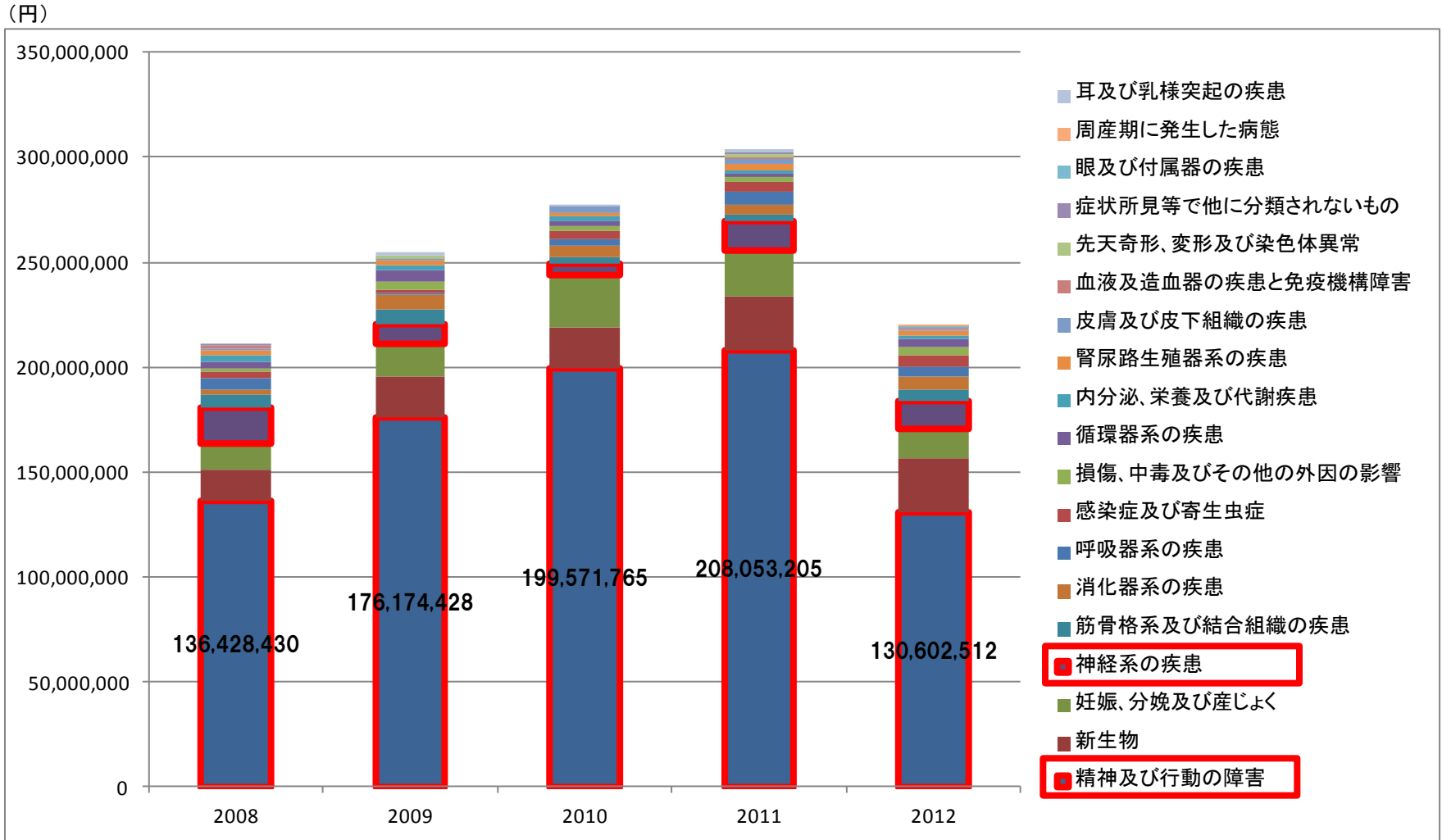
119分類別の推移をみると、妊娠、分娩及び産じょくの増加が顕著（年平均19.6%増）。次いで、腎尿路生殖器系とメタボ系の増加幅が大きい。

医科医療費の主要疾患別推移（医療費上位10疾患）



傷病手当の支給金額は2011年に3億円を超え、その大部分がメンタル疾患が原因。
2012年は減少に転じたものの、今後も継続して減少させていく必要がある。

傷病手当支給金額



2012年度までの医療費分析では、ベンチマーク比や増加率の高さから、精神神経系と婦人科系の取組優先度が高いという結果になった。

分類		傾向・特徴	取組優先度案
医 科 医 療 費	メタボ系疾患	基礎	3
		重症	2
	悪性新生物	3	
	精神神経系疾患	1	
	婦人科系疾患	1	
	調剤費	4	

当健保は、これまでもにも主要な課題に対して網羅的な取り組みを行い、成果を上げている。今後も、とくに精神神経系、婦人科系、前期高齢者について、優先的に実行していく。

分類		健保における優先度	これまでの取り組み	成果	
医科医療費	精神神経系疾患	1	<ul style="list-style-type: none"> ✓電話相談(本人無料)・面接相談(補助有)(外部委託<面接相談:年5回まで補助有り、6回目以降全額自己負担>) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓利用者数→電話相談 延べ159人、メール相談 延べ12人、面談相談 延べ10人 	
	婦人科系疾患	1	<ul style="list-style-type: none"> ✓妊娠の啓発活動(マニティセルフケアBOOK配布) ✓保健師による個別体調確認の実施(重度貧血者・妊娠中不調者等) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓マニティセルフケアBOOK配布 約500人/年 ✓保健師体調確認:重度貧血者 10人/年、妊娠不調休業者 30人/年 	
	前期高齢者	1	<ul style="list-style-type: none"> ✓保健事業(訪問事業/健康啓発冊子配布) ✓個別健康支援(レセプト確認/健康度別継続フォロー) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓全体の年間医療費減少(2012年度比の2013年度医療費:88.4%) 	
	メタボ系疾患	重症	2	<ul style="list-style-type: none"> ✓ハイリスク者の疾病管理(レセプトによる定期受診・治療状況の確認) ✓保健指導(面談含む)、面談不能者への文書指導 ✓定期受診者への継続支援(遠隔地) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓面談者の結果 <ul style="list-style-type: none"> ・データ改善、又はコントロール良好(23.5%) ・データ変動無、又は自己管理実施(61.8%) ・治療不十分、未治療、自己管理無(14.7%)
		基礎	3	<ul style="list-style-type: none"> ✓被保険者・被扶養者に対する特定健診・特定保健指導の実施(健保保健師・委託業者が担当) ✓禁煙キャンペーンの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ✓特定健診・特定保健指導ともに受診率・実施率が参酌標準を達成 ✓メタボ改善率も11.8%と参酌標準を上回った
	悪性新生物	3	<ul style="list-style-type: none"> ✓被保険者検診(がん検診:胃がん/大腸がん/乳がん/子宮がん) ✓配偶者健診(基本健診・がん検診) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓被保険者における受診率(胃68.9%、大腸73.5%、乳69.4%、子宮61.3%) ✓有所見者における措置率(胃75.1%、大腸61.3%、乳72.2%、子宮78.0%) 	
調剤費	4	<ul style="list-style-type: none"> ✓ジェネリック変更通知書の通知(年4回) ✓HPに切替効果がわかるHPリンクを貼る 	<ul style="list-style-type: none"> ✓全体のジェネリック使用率が改善(通知前20.8%→通知後23.6%) ✓通知者12%において医療費削減効果があった 		

成果をとりまとめ、今後の課題を定める。
 精神神経系、婦人科系、メタボ系重症については、施策の強化が必要である。

分類		成果	今後の課題	今後の取組方針	
医科医療費	精神神経系疾患	<ul style="list-style-type: none"> ✓利用者数→電話相談 延べ159人、メール相談 延べ12人、面談相談 延べ10人 	<ul style="list-style-type: none"> ✓事業主とのコワークする余地が大きい ✓原因別対策の具体化 ✓休職だけでなく、退職者も多そう ✓特に販社に対象者が集中 	強化 (事業主と)	
	婦人科系疾患	<ul style="list-style-type: none"> ✓マタニティセルフケアBOOK配布 約500人/年 ✓保健師体調確認: 重度貧血者 10人/年、妊娠不調休業 30人/年 	<ul style="list-style-type: none"> ✓事業主とのコワークする余地が大きい ✓妊産婦の労働環境の改善余地あり ✓妊娠に関するセルフケアとラインケアの充実 	強化 (事業主と)	
	前期高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ✓全体の年間医療費減少 (2012年度比の2013年度医療費:88.4%) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓現状維持で進めたいが63~64歳に、高額医療者もいるので数年後の高騰リスクあり 	現状維持	
	メタボ系疾患	重症	<ul style="list-style-type: none"> ✓面談者の結果 <ul style="list-style-type: none"> ・データ改善、又はコントロール良好(23.5%) ・データ変動無、又は自己管理実施(61.8%) ・治療不十分、未治療、自己管理無(14.7%) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓母体企業以外への対策が未実施 	強化
		基礎	<ul style="list-style-type: none"> ✓特定健診・特定保健指導ともに受診率・実施率が参酌標準を達成 ✓メタボ改善率も11.8%と参酌標準を上回った 	<ul style="list-style-type: none"> ✓今後、加入者の高齢化に伴い、対象者が増加する見込みであり、対応できる体制整備が課題 ✓指導実施者の中期的な効果の継続性が検証できていない 	現状維持
	悪性新生物	<ul style="list-style-type: none"> ✓被保険者における受診率(胃68.9%、大腸73.5%、乳69.4%、子宮61.3%) ✓有所見者における措置率(胃75.1%、大腸61.3%、乳72.2%、子宮78.0%) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓将来的には、全てのがん検診受診率を80%にしたい ✓有所見者の事後措置率が低い 	現状維持	
	調剤費	<ul style="list-style-type: none"> ✓全体のジェネリック使用率が改善(通知前20.8%→通知後23.6%) ✓通知者12%において医療費削減効果があった 	<ul style="list-style-type: none"> ✓着実に成果出現しているが、一層の成果出現可能性はありそう(使用率50%に向けて) 	強化可能性 探索	

今後は、健保組合単体では、メタボ重症化予防策を優先的に強化し、事業主と共同では、精神神経系と婦人科系の対策を強化していく。

分類		健保における 優先度	今後の 取組方針	成果指標	今後の施策	
医科医療費	精神神経系疾患	1	強化 (事業主と)	<ul style="list-style-type: none"> ✓医療費、患者数 ✓傷病手当金(支給人数/日数) ✓退職者数、埋葬者数 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ラインケア、セルフケアの両面から施策を検討 ✓原因別の対策の具体化 	
	婦人科系疾患	1	強化 (事業主と)	<ul style="list-style-type: none"> ✓医療費、患者数 ✓傷病手当金支給者数 	<ul style="list-style-type: none"> ✓店舗勤務の女性を中心に「目指せ！I am 健康ガール」を実施 ✓個別体調管理の継続 	
	前期高齢者	1	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ✓全体の年間医療費減少 	<ul style="list-style-type: none"> ✓保健事業(訪問事業/健康啓発冊子配布) ✓個別健康支援(レセプト確認/健康度別継続フォロー/ジェネリック通知) 	
	メタボ系疾患	重症	2	強化	<ul style="list-style-type: none"> ✓医療費、患者数 ✓施策効果(参加率/体組成変化/活動変化/意識変化) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓教育入院、健康教室などのリスクアプローチによる重症化予防を実施(予定)
		基礎	3	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ✓医療費、患者数 ✓施策効果(参加率/体組成変化/活動変化/意識変化) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓被保険者・被扶養者への特定健診・特定保健指導(健保保健師・委託業者が担当) ✓禁煙キャンペーン
	悪性新生物	3	現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ✓医療費、患者数、死亡者数 ✓施策効果(健診受診率/有所見者の事後措置率) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓被保険者検診(がん検診:胃がん/大腸がん/乳がん/子宮がん) ✓配偶者健診(基本健診・がん検診) 	
	調剤費	4	強化可能性 探索	<ul style="list-style-type: none"> ✓ジェネリック利用率 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ジェネリック変更通知書の通知(年4回) ✓さらなる強化施策の検討 	

IV. コラボヘルス_事業主(人事部労務課)との連携

本事業の実行には、健保と事業所が一体となって「コラボヘルス」を実現。
常に進捗を共有できるよう、綿密な情報交換を行うような仕組みづくりを行う。

コラボヘルスの必要性

<これまでの取り組み>

- これまで、健康と安全に関して、意図的に健保組合と事業所の業務を切り離すことで、双方がしっかりと相互の役割を認識し業務を遂行することができるようにしてきた。
- その一方で、関係部署どうしでの定例会を開催し、お互いの業務についての綿密な情報交換を試みている。その一定の成果からコラボヘルスの、より一層の重要性を認識し始めている。

<とくにコラボを必要とする事項>

- 事業所ごとに課題が異なることから、それぞれの現状をリアルタイムで把握するというインプット面での困難さがあった。
- また、店舗系の社員を多く有する当グループにおいては、広く多くの社員に介入(アウトプット)を行うためには健保のみでは限界があった。

今後の取り組み

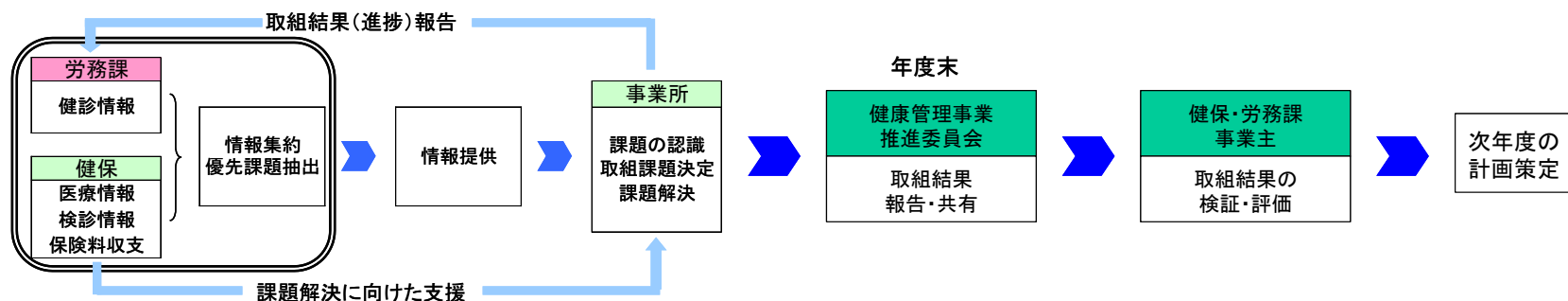
<インプットでのコラボ>

- 健保組合が持つ情報と事業主が持つ情報を集約し、事業所ごとの優先課題を抽出し、事業主に説明と情報提供を行う。
- 健保組合と労務課は、事業主の課題解決に向けて情報提供と支援を行う。
- 事業主は年度末に、1年間の取組みについて健康管理事業推進委員会(中央安全衛生委員会)で発表し、全体共有を図る。

<アウトプットでのコラボ>

- 課題は事業所毎に優先順位をつけ、事業主が主体となってアクションプランを作成し、改善に取り組む。
- 健保組合と労務課は、課題解決の進捗状況を把握・管理し、必要な打ち手の提案と支援を行う。

コラボヘルスの運営スキーム



データヘルス計画実施計画

STEP 3 保健事業の実実施計画

「全健保組合共通様式」

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者						注2) 実施主体	実施計画			目標 (達成時期:平成29年度末)		
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者	平成27年度		平成28年度	平成29年度	アウトプット	アウトカム		
職場環境の整備																
疾病予防	7	既存	職場環境の整備	【目的】健康な職場環境づくり 【概要】受動喫煙の防止、加重労働の抑制、社員食堂でのヘルシーメニュー提供等	被保険者	全て	男女	18 ~ 64	全員	2	・喫煙環境の段階的縮小 ・母体企業を中心に時間管理を徹底する ・ヘルシーメニューの提供とカロリー表示を行う	・事務所内禁煙を目指す ・グループ内の時間管理を徹底し、過重労働対策を進める	・継続	—	—	
加入者への意識づけ																
保健指導宣伝	4	既存	広報による情報提供	【目的】情報発信 【概要】健保組合の情報や医療保険制度の周知、健康管理に役立つ情報等を発信	被保険者 被扶養者	全て	男女	0 ~ 74	全員	1	・広報誌の発行、ホームページの開設 ・事業所発行の広報誌への記事提供 ・社員食堂のポップスタンドに健康情報掲示	・継続 ・媒体間の連携により、事業効果を高める	・継続	・健保日より 年3回発行 7,000部/回 各店舗には1部を交付し、店頭のパortalサイトに掲載 ・ホームページは毎月更新 ・事業所への健康記事毎月提供 ・ポップスタンド毎月更新	—	
	4	既存	ヘルスサポートシステム (HSS)	【目的】自らの健康の振り返り 【概要】Webで過去の健診データを提供自らの健康管理や生活習慣の改善をシミュレーションできる	被保険者	全て	男女	18 ~ 64	全員	1	・ヘルスサポートシステム (HSS)の提供 ・HSSへの登録促進	・継続	・継続	—	・個人画面登録者割合 被保険者の15%	
その他	4	既存	健口健歩チャレンジ	【目的】歯科医療費の抑制と運動習慣のきっかけ作り 【概要】歯の健康習慣とウォーキングの目標を設定し、1ヶ月間目標達成に取り組む	被保険者	全て	男女	18 ~ 64	全員	1	・継続	・事業がマンネリ化しないよう趣向を凝らし、参加者増を目指す	・継続	・春秋 年2回実施	・参加者数 毎回 1,000名 ・歯科医療費の伸びに変化(鈍化)が現れる	
個別の事業																
特定健康診査事業	1	法定	特定健診	【目的】特定健診の受診率向上 【概要】指定医療機関、巡回健診、受診券利用、かかりつけ医受診の際の補助金制度など、任意継続被保険者や被扶養者が受診しやすい環境を提供	被保険者 被扶養者	全て	男女	40 ~ 74	全員	1	・被扶養者の受診率向上策の検討と実施	・ポピュレーションアプローチによる健康インフラ構築	・第3期特定健康診査等実施計画書の策定	・被扶養者全員に対し受診勧奨を行う ・本社の全社員に、健保組合の活動や生活改善に関する情報提供を積極的に行う (広報誌、メタボ結果表、禁煙案内等)	・被扶養者の健診受診率 61.4% ・平成25年度のメタボ該当率 (24.1%) を維持する	
特定保健指導事業	3	法定	特定保健指導	【目的】厚生労働省ホームページ データヘルス計画書 健保組合共通様式 【概要】厚生労働省ホームページ データヘルス計画書 健保組合共通様式	被保険者 被扶養者	全て	男女	40 ~ 74	全員	1	・厚生労働省ホームページの活用	・厚生労働省ホームページの活用	・厚生労働省ホームページの活用	・厚生労働省ホームページの活用	・厚生労働省ホームページの活用	・厚生労働省ホームページの活用

厚生労働省ホームページ
データヘルス計画書 健保組合共通様式

検索

保健指導実施率 62%

・平成25年度の保健指導対象者率 (11.9%) を維持する
・保健指導実施者から新規重症患者を0名にする

データヘルス計画の見直し

① 精神神経系疾患(メンタルヘルス)対策



事業の概要	29年度当初目標		見直し後の29年度目標	
	アウトプット	アウトカム	アウトプット	アウトカム
ライン教育	ラインケア教育の管理職参加率 90%	店長の意識改善 65%	①ストレスチェックの実施 対象者の80% ②管理者教育の実施	管理職教育の受講者アンケートで理解度 70%以上
セルフケア教育	情報発信(年4回)	社員の意識改善 65%	情報提供の実施 ①健保だより 情報配信2回 ②店頭ポータルサイト 情報配信2回	定期健診問診の指標値 (仕事の満足かつストレス 解消法あり) 65%以上 (H26:61.4%)
意識改善	理解度アンケート(年1回) アンケート参加率 80%			
個別対応(原因別対策)	原因別対策の実施率 65%	原因別発生率 5%削減	ストレスチェック制度 ハイリスク者の面談実施	メンタル疾患の傷病手当金 (H26→H29) ①発生率 10%減 (1.06%→0.96%) ②支給者一人当たりの 日数 5%減 (136日→131日以下) ③被保険者一人当たりの 支給金額 5%減 (7,349円→6,982円以下)

データヘルス計画の見直し

② 婦人科系疾患(女性の健康)対策



事業の概要	29年度当初目標		見直し後の29年度目標	
	アウトプット	アウトカム	アウトプット	アウトカム
ライン教育			販社で参加対象者の80% にライン教育を実施	受講者の理解度 70%
セルフケア教育 → ポピュレーション アプローチ	教育の実施	健康意識の改善率 50%	①乳がん検診 事後措置勧奨 ②情報配信 7回	①乳がん検診 事後措置率 95% ②女性疾患傷病手当金 ・支給者数減(H26:91人) ・支給者一人当たりの 日数減(H26:68日) ・女性被保険者 一人当たり支給金額減 (H26:2,024円)
個別体調確認 → 個別支援	重度貧血者の体調確認・ 保健指導 実施率 80%	数値改善率 20% 平均休業日数改善率 20%	①貧血者(Hb9未満)の 事後措置勧奨の実施 (産業医指示) ②やせ・飲酒・月経障害の リスク重複者への啓発 実施 100%	①貧血者の出現率減少・ 改善率プラス H26:87名 出現率 0.89% ②個別啓発(重複リスク)者 の改善率 10%
	妊娠初期の体調不調休業 者確認 実施率 80%			

③ メタボ系疾患対策

2

強化

事業の概要		29年度当初目標		見直し後の29年度目標	
		アウトプット	アウトカム	アウトプット	アウトカム
メタボ重症	現状把握	40歳以上の健診結果、レセプトチェックの実施	メタボ重症者 100%把握	特定健診対象者の健康状態の把握 (健診結果・レセプト)	メタボ重症者の状況把握 100%
	ポピュレーションアプローチ	情報提供	重症化疾病と自己管理意識の定着 50%	疾病管理対象者(糖尿病・高血圧受診勧奨レベル者)への個別情報提供	継続支援対象者の自己管理意識レベル「良・可」を 80%以上
	受診勧奨	未治療・コントロール不良者への専門医案内 (受診勧奨)	未治療・治療中断者をゼロにする	疾病管理対象者の内、未治療・コントロール不良者への受診勧奨	該当者の未治療・自己治療中断ゼロ
	保健指導	高リスク者(150名)への実施	保健指導実施者から新規重傷者の出現ゼロ	疾病管理対象者高リスク者 150名(見込み)への保健指導	継続支援対象者から新規重症者(入院)の出現ゼロ
メタボ基礎	ポピュレーションアプローチ	情報提供	メタボ該当・予備軍率 11.3%以下 (H20年度比 25%減)	情報提供	メタボ該当・予備軍率 11.3%以下 (H20年度比 25%減)
	健診受診勧奨	被扶養者への特定健診受診勧奨の実施	特定健診受診率 61.4%	被扶養者への特定健診受診勧奨の実施	特定健診受診率 61.4% (国への報告ベース)
	特定保健指導	特定保健指導実施率 62%	特定保健指導対象者率 12%未満	特定保健指導実施率 62%	特定保健指導対象者率 10%減少 (H26:10.7%→9.6%)

データヘルス計画の推進(進捗状況)

① 精神神経系疾患(メンタルヘルス)対策

事業の概要	見直し後の29年度目標		28年度進捗状況	
	アウトプット	アウトカム	アウトプット	アウトカム
ライン教育	<ul style="list-style-type: none"> ①ストレスチェックの実施対象者の80% ②管理者教育の実施 	管理職教育の受講者アンケートで理解度 70%以上	<ul style="list-style-type: none"> ①ストレスチェックの実施対象者の74.4% ②管理者教育の実施参加者 145名 	管理職教育の受講者アンケートで理解度 100% (回答者数 93名)
セルフケア教育	情報提供の実施 <ul style="list-style-type: none"> ①健保だより 情報配信2回 ②店頭ポータルサイト 情報配信2回 	定期健診問診の指標値 (仕事の満足かつストレス解消法あり) 65%以上 (H26:61.4%)	情報提供の実施 <ul style="list-style-type: none"> ①健保だより 情報配信3回 ②店頭ポータルサイト 情報配信2回 	定期健診問診の指標値 (仕事の満足かつストレス解消法あり) 62.6%
意識改善				
個別対応(原因別対策)	ストレスチェック制度 ハイリスク者の面談実施 (制度基準の遵守)	メンタル疾患の傷病手当金 (H26→H29) <ul style="list-style-type: none"> ①発生率 10%減 (1.06%→0.96%) ②支給者一人当たりの日数 5%減 (136日→131日以下) ③被保険者一人当たりの支給金額 5%減 (7,349円→6,982円以下) 	ストレスチェック制度 ハイリスク者の面談希望者 (12名)に対し 100%実施	メンタル疾患の傷病手当金 (H26→H29) <ul style="list-style-type: none"> ①発生率 23%減 (1.06%→0.77%) ↓ ②支給者一人当たりの日数 4%増 (136日→143日) ↑ ③被保険者一人当たりの支給金額 20%減 (7,349円→5,861円) ↓

② 婦人科系疾患(女性の健康)対策

事業の概要	見直し後の29年度目標		28年度進捗状況	
	アウトプット	アウトカム	アウトプット	アウトカム
ライン教育	販社で参加対象者の80%にライン教育を実施	受講者の理解度 70%	(未実施)	(未実施)
ポピュレーションアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ①乳がん検診 事後措置勧奨 ②情報配信 7回 	<ul style="list-style-type: none"> ①乳がん検診 事後措置率 95% ②女性疾患傷病手当金 <ul style="list-style-type: none"> ・支給者数減(H26:91人) ・支給者一人当たりの日数減(H26:68日) ・女性被保険者一人当たり支給金額減(H26:2,024円) 	<ul style="list-style-type: none"> ①乳がん検診 事後措置勧奨 100% 対象者 223名 ②情報配信 5回 	<ul style="list-style-type: none"> ①乳がん検診 事後措置率 79.4% ②女性疾患傷病手当金 <ul style="list-style-type: none"> ・支給者数減(73人) ↓ ・支給者一人当たりの日数減(36日) ↓ ・女性被保険者一人当たり支給金額減(1,629円) ↓
個別支援	<ul style="list-style-type: none"> ①貧血者(Hb9未満)の事後措置勧奨の実施(産業医指示) ②やせ・飲酒・月経障害のリスク重複者への啓発実施 100% 	<ul style="list-style-type: none"> ①貧血者の出現率減少・改善率プラス H26:87名 出現率 0.89% ②個別啓発(重複リスク)者の改善率 10% 	<ul style="list-style-type: none"> ①事後措置勧奨 100%実施 対象者 93名 ②啓発 100%実施 対象者 100名 	<ul style="list-style-type: none"> ①出現率 0.98% 改善率 ※ ②改善率 ※ (在籍81名/実施100名) <p>※改善率は、H29年度健診後に評価</p>

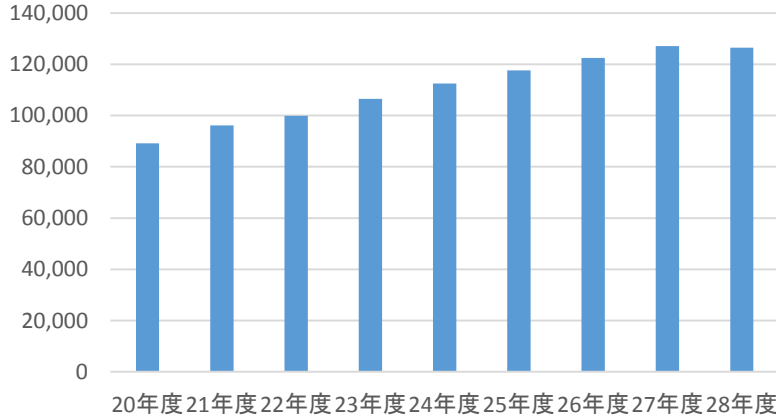
データヘルス計画の推進(進捗状況)

③ メタボ系疾患対策

事業の概要		見直し後の29年度目標		28年度進捗状況	
		アウトプット	アウトカム	アウトプット	アウトカム
メタボ重症	現状把握	特定健診対象者の健康状態の把握 (健診結果・レセプト)	メタボ重症者の状況把握 100%	健康状態の把握 100% 対象者 3,028名	メタボ重症者の状況把握 100% 対象者 78名
	ポピュレーションアプローチ	疾病管理対象者(糖尿病・高血圧受診勧奨レベル者)への個別情報提供	継続支援対象者の自己管理意識レベル「良・可」を80%以上	疾病管理対象者(78名)全員へ個別情報提供	継続支援対象者の自己管理意識レベル「良・可」88.8% (16名/18名中)
	受診勧奨	疾病管理対象者の内、未治療・コントロール不良者への受診勧奨	該当者の未治療・自己治療中断ゼロ	疾病管理対象者の内、未治療・コントロール不良者への受診勧奨 対象者 3名	未治療・自己治療中断者 2名
	保健指導	疾病管理対象者高リスク者150名(見込み)への保健指導	継続支援対象者から新規重症者(入院)の出現ゼロ	保健指導対象者 78名 全員に実施 (面談20、TEL27、文書31)	入院 1名 (虚血性心疾患)
メタボ基礎	ポピュレーションアプローチ	情報提供	メタボ該当・予備軍率 11.3%以下 (H20年度比 25%減)	メール配信 450名×3回 ポータル配信 2,300店舗×3回	メタボ該当・予備軍率 11.2% ↓ (該当4.8%、予備軍6.4%)
	健診受診勧奨			対象者(486名)に受診勧奨実施	特定健診受診率 56.4% (282名/500名中)
	特定保健指導			特定保健指導実施率 49.2%	特定保健指導対象者率 11%減少 (H26:10.7%→9.5%) ↓

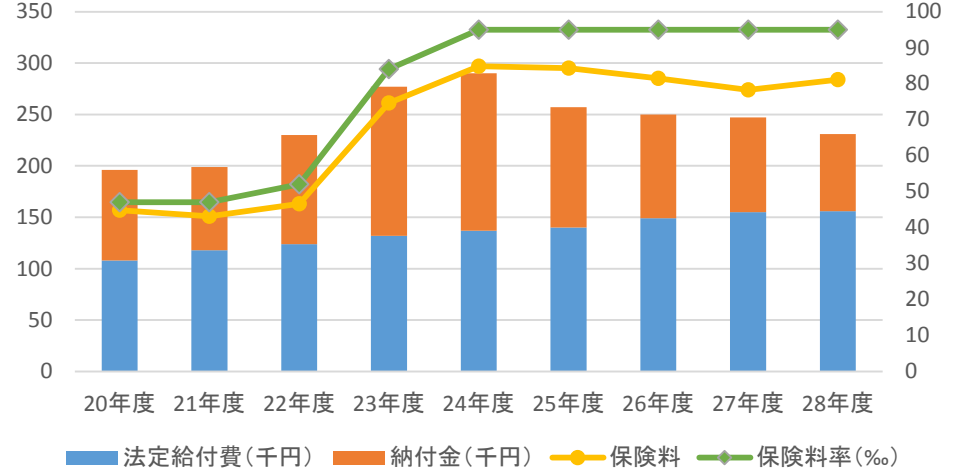
現在の状況

法定給付費 被保険者1人当り額(円)



法定給付費：出産、埋葬費除く
 CAGR：データヘルス前 5.5%
 データヘルス後 1.6%

被保険者1人当り額(千円)



事業を進める上で、心掛けていること

- 事業環境に合わせて、柔軟に事業計画を見直す
- 計画の精度を高めていく
- 評価指標を設定する → 結果を確認する
- アウトプット、アウトカムが適正であるか検証する
- 組織のミッション(事業目標)を振り返る … 何の為にやっているのか？
 … そのやり方でいいのか？ … 成果につながるのか？
- コラボヘルスはWin-Win … 相互理解と情報共有 → 課題解決

ご清聴ありがとうございました